

う つ せ み
u t s u s e m i

愛知県小牧市にある常懐荘にて、作家主導の下、企画展「うつせみ」を開催します。

○展覧会の趣旨とみどころ

本展は、現代美術作家8名によるグループ展です。

タイトル「うつせみ」とは、2004年のヴェネツィア映画祭で銀獅子賞を受賞したキム・ギドク監督の作品の邦題からつけられました。この語は「現身」(現世を生きる我々)、あるいは「空蟬」(蟬の抜け殻)を表し、儚さを示す日本語です。本展覧会の作家の生み出す作品は、まさにその「うつせみ」の如く、作品が空間に溶けこみ、或いはそれらがどこにあるのかわからないような、儚い表現が特徴です。その居所をことさら主張するでもなく、まるでその場所への気づきを誘うような存在であり、作品そのものの価値よりも、それを触媒として触れられる世界にこそ価値を見いだせるような、謂わば「主体の抜け殻」としての虚ろなる作品群として機能するのです。今回の展示では、それ自体「空蟬」と言える空間である常懐荘の中に展示され、そこに降り注ぐ自然光とともに見せます。秋の爽やかな季節に催されるこの展覧会は、周囲の風土を観客が身体で感じながら、点在する作品たちを探し彷徨い歩く中で、常懐荘の持つ美しい意匠や豊かな歴史を隅々まで体感できるものになることでしょう。

タイトルにて引用した映画では、他人の留守宅を転々としながら生活を営む主人公が登場します。彼は、いつもその家の壊れたものを直して、最後には何事もなかったように去っていきます。展覧会というのもまた、常に仮初めなものであり、会期が終われば何事もなかったように片付けられませんが、展示によっては、それが行われる以前と以後で、場もしくは訪れた人に(気付く気付かないに関わらず)変化を与えるものがあります。そのような展示をこの展覧会では目指しています。

震災や原発事故を経て、美術に限らずさまざまな分野でこれまでの価値観や方法が問い直されてる時代ですが、だからこそ声高で分かりやすい方法ではなく、ある気付きとして作用する密やかな事象の持つ、確かな価値の在り方を、これらの作家の手法を通して提示したいと考えます。

またこの展覧会に加え、参加作家による小品展示「うたかた」も名古屋市内にあるアートラボあいちにて開催されます。併せてご高覧頂けましたら幸いです。

○常懷莊とは

小牧市の久保山に位置する「常懷莊」は昭和8年、竹内禪扣(ぜんこう)氏によって建てられ、禪扣氏が亡くなる一年前に完成しました。和館と廊下でつながる別棟の洋館、2階は書齋としての洋室、書庫と和室の2室を有し、昭和初期の特徴的な和洋折衷スタイルで構成されています。

建物名に使われた「常懷(じょうかい)」は常に心が引かれるという意味があり、禪扣の好きだったなでしこの別名でもあります。この花をレリーフした家具や天井、ステンドグラスなど美意識の高さや、座敷の襖絵を山田秋衛氏(大和絵)、尾上柴船氏(仮名文字)に依頼するなど、文化人との交流も深く、芸術や文学に精通していたことがうかがわれます。また、禪扣は早稲田大学にて坪内逍遙に師事し、晩年まで交流がありました。直筆の書も残されており、常懷莊は逍遙の熱海の双柿舎をモデルにしたと思われます。

後年、禪扣氏は妻しげ氏と共に名古屋市内に女子工芸学校(現在の愛知産業大学)を設立します。禪扣氏が真っ先に考えた事は、貧しいゆえに進学をあきらめざるを得なかった女性たちに学業の道を開くことでした。今日、女性が自由に学び社会において活躍できる場を得られているのも、こうした先人達の大きな志によるもの、と言えます。教育者として一生を捧げた禪扣氏の女学校は5千名もの卒業生を輩出しました。

晩年、病に倒れ短い時を常懷莊で静かに過ごしています。

庭には、桜や紅葉、からたちなど季節を彩る花木や果実の木が植わり、四季折々の景色が心休まる最期の場所となりました。

竹内禪扣

明治10年生 早稲田大学文学部文学科卒業

大正15年 愛知高等女子工芸学校長及び設立者就任

名古屋市より教育功績者として銀杯一組を受ける

昭和10年死没 享年59歳 林 暁子 昭和15年生

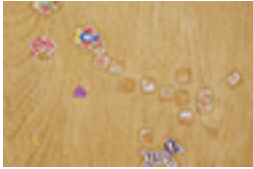


○展覧会出品作家



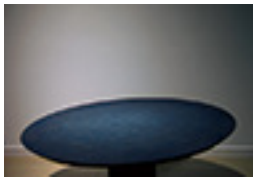
今村 遼佑 Ryosuke IMAMURA

1982年 京都府出身
2007年 京都市立芸術大学大学院彫刻専攻 修士課程修了
2011年 個展「ひるのまをながめる」(資生堂ギャラリー / 東京)
2011年 「ヨコハマトリエンナーレ 2011」(横浜美術館 / 神奈川) 等



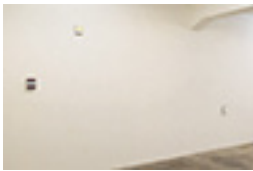
碓井 ゆい Yui USUI

1980年 東京都出身
2006年 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修了
2010年 個展「泣く前」(studioJ / 大阪)
2011年 「有馬温泉路地裏アートプロジェクト2011」(有馬温泉/兵庫)等



大船 真言 Makoto OFUNR

1977年 大阪府出身
2001年 京都教育大学特修美術科日本画専攻研究科修了
2011年 「Shuffle」(白金アートコンプレックス/東京)
2011年 「Repères」(Espace Topographie de l' art / パリ)等



越野 潤 Jun KOSHINO

1967年 大阪府出身
1991年 京都市立芸術大学大学院油画専攻 修士課程修了
2012年 個展「Interlude - 合間の出来事 -」(Gallery Yamaguchi Kunst-Bau / 大阪)
2012年 個展「two colors」(GALERIE ASHIYA SCHULE / 兵庫)等



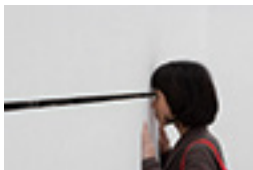
近藤 洋平 Yohei KONDO

1984年 岐阜県出身
2009年 武蔵野美術大学大学院造形研究科デザイン専攻建築コース修了
2011年 「第 24 回 UBE ビエンナーレ」(ときわ公園彫刻野外展示場 / 山口)
2012年 「水と土の芸術祭2012」(新潟市内 / 新潟)等



寺田 就子 Shuko TERADA

1973年 大阪府出身
1997年 京都市立芸術大学美術学部美術学科版画専攻卒業
2012年 個展「影の透きまに眩う」(galerie16 / 京都)
2012年 「うすらい」(GALLERY CAPTION / 岐阜)等



森川 穰 Minoru MORIKAWA

1983年 大阪府出身
2007年 Chelsea College of Art and Design Postgraduate Diploma Fine Art 修了
2010年 個展「確かなこと」(京都芸術センター / 京都)
2012年 IPP#0「風景の逆照射」(ギャラリーフロール / 京都)等



森 太三 Taizo MORI

1974年 大阪府出身
1999年 京都精華大学大学院美術研究科立体造形専攻 修了
2011年 個展「空を眺める」(ギャラリー wks. / 大阪)
2012年 個展「海を眺める」(ギャラリー揺 / 京都)等

○開催情報

- ・ 展覧会名 「うつせみ」
- ・ 会期 2012年9月22日(土) - 10月14日(日)
- ・ 時間 11時 - 17時 金・土・日・祝日のみ * 入場無料
- ・ 会場 常懷莊 (愛知県小牧市久保一色 228)
- ・ 主催 「うつせみ展」 実行委員会
- ・ 協力 常懷莊維持再生委員会
- ・ 協賛 資生堂 公益財団法人野村財団

○関連企画

トーク「うつろなるゆたかさについて」+ 夜の特別展示

- ・ 日時 2012年10月13日(土)
- ・ 時間 17:30 - 20:00 (トークは1時間半程度を予定)
- ・ 会場 常懷莊
- ・ 参加費 500円
- ・ 参加者 秋庭史典(美学研究者) X 出品作家

展覧会「うたかた」 * 参加作家によるサテライト展示

- ・ 会期 2012年9月22日(土) - 10月14日(日)
 - ・ 時間 11時 - 19時 月・火休 * 入場無料
 - ・ 会場 アートラボあいち (名古屋市中区錦 2-10-30)
 - ・ 主催 あいちトリエンナーレ実行委員会
 - ・ 協力 「うつせみ展」 実行委員会
 - ・ お問い合わせ TEL 052-204-6444 E-MAIL info@artlabaichi.net WEB <http://www.artlabaichi.net>
- * 9月22日(土) 18:30 よりオープニングトークを予定。

掲載に際して、画像等必要なものがあれば、下記のお問い合わせ先にご連絡をお願いします。

TEL 080-1505-6581 (代表 森川)

E-MAIL utsusemiproject@gmail.com

WEBSITE <http://www.utsusemiproject.com>

交通・地図 旧竹内邸・常懷莊 〒485-0003 愛知県小牧市久保一色 228

◎電車でのアクセス
名鉄小牧線「味岡」駅より徒歩10分
・名古屋方面より
地下鉄名城線「平安通」乗り換え、上飯田線「大山」行き乗車、「味岡」下車。
・岐阜方面より
名鉄「大山」乗り換え、名鉄小牧線「平安通」行き乗車、「味岡」下車。
・名古屋駅より(約45分)
地下鉄東山線「藤が丘」行き乗車、「栄」乗り換え、地下鉄名城線右回り乗車、「平安通」乗り換え、上飯田線「大山」行き乗車「味岡」下車。

◎車でのアクセス
東名高速道路「小牧」I.C. より約10分
名古屋高速11号小牧線「小牧北」I.C. より約10分
* 路上駐車は近隣の方のご迷惑になりますので、公共交通機関をご利用ください。